

市町村名	久米島町						
令和6年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート							
事業名	久米島産コーヒー生産体制構築事業	事業類型	<input checked="" type="checkbox"/> 産業振興 <input type="checkbox"/> 定住促進 <input type="checkbox"/> その他				
担当部課名	産業振興課	現年事業または繰越事業	<input checked="" type="checkbox"/> 現年事業 <input type="checkbox"/> 繰越事業				
事業内容	外国産品に依存しているコーヒー豆について、沖縄の亜熱帯気候を活かした久米島産コーヒー生産拠点の確立や新たな特産品等の開発を図るため、コーヒー生産体制構築の支援を行うことにより、農業振興と新たな特産品開発などを通じた観光振興を図る。						
先導性等に係る取組	<input checked="" type="checkbox"/> 自立性 <input type="checkbox"/> 官民協働	<input checked="" type="checkbox"/> 政策間連携 <input type="checkbox"/> 事業推進主体の形成	<input type="checkbox"/> 離島活性化を担う人材の確保・育成 <input type="checkbox"/> その他				
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和 年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	年度	年度	
	当初予算額	8,752	5,896	1,490			
	増減額	2,384	0	1,701			
	予算現額	11,136	5,896	3,191	0	0	
	前年度から繰越	0	0	0	0	0	
	翌年度へ繰越	0					
	計(A)	11,136	5,896	3,191	0	0	
	執行済額(B)	10,149	3,599	2,862			
	うち補助金充当額	8,119	2,879	2,289			
	不用額	987	2,297	329	0	0	
執行率(%) (B/A)	91.1%	61.0%	89.7%	#DIV/0!	#DIV/0!		
予算の状況の説明	見積徴収し契約を行った結果、不用額が生じたが概ね計画通り執行できた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	年度	年度
	コーヒー支柱整備	目標	4,100本				
		実績	4,100本				
	焙煎設備整備	目標		12台			
		実績		9台			
	倉庫の整備	目標			1件		
		実績			1件		
	達成状況説明	令和6年度の目標であった倉庫(20フィートコンテナ)を計画通り整備し、目標数量を達成することができた。					
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	令和6年度	年度	年度
コーヒー豆出荷額 (単位:千円)		目標		12,675			
		実績	—	1,040			
成果目標(指標)		基準値(年度)	令和6年度	年度	年度	後年度目標値(年度)	
特産品の新規開発品数		目標		2品			
		実績	—	2品			
進捗状況説明	コーヒー豆の生産量が伸び悩み(目標に対し△307キロ)、出荷額が目標値から大幅に下回ったが、特産品新規開発は目標値の2商品達成をした。						

	成果目標に対する原因・要因分析	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施前の過去3か年間で比較して、事業実施期間中の3か年間は夏場の平均気温が上昇し、かつ気温30℃以上の日数が4倍近くなったことから、熟成スピードが不安定となり樹ごとの熟度差が広がり、果実の肥大が不十分となった。また、夏場の雨量不足による未成熟豆の割合が増加した。 一部のコーヒー畑では、自生していたシェードツリー(松)の一部に立ち枯れが生じたことにより、遮光バランスが崩れ、果実の成長や熟度に悪影響を与えた。 生豆は県内ロースターに評価されているが、焙煎豆は流通先が限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 高温対応型の栽培技術模索(新品種導入予定)を行い、一定程度の環境下においても、安定した生産が可能な仕組みを構築する必要がある。 シェードツリー再整備(遮光バランスの回復)が必要。 焙煎豆の販路開拓(観光施設・空港等)、久米島産コーヒーの希少性を伝える情報発信の強化が必要。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 適正なシェードツリーの導入→植樹により、遮光と生態系バランスの再構築を行う。 収量安定化に向けた遮光、灌水管理の強化を行う。 久米島産コーヒーの「島内唯一」「小ロット・手摘み・丁寧な発酵」などの希少性を明示し、希少価値が高い旨をPRL販売へ繋げていく。 県内カフェ・ロースターへ生豆の継続提供に加え、商品化の際に「久米島産」の表示を設けて認知度を上げていく。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担額	補助対象外経費
	3,936	2,862	2,289	573	1,074
<pre> graph LR A[久米島町 2,862千円] --> B[補助金 2,862千円] B --> C[農事組合法人 久米島コーヒー生産組合 2,862千円] C --- D[補助内容 倉庫(20フィートコンテナ) 1基購入] </pre>					

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	補助金交付団体は久米島コーヒー生産農家で構成する組合を選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は目標を達成するために必要とされる適正な予算規模になっている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	補助金交付団体は、総事業費の2割を負担しており、事業内容や他事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途については精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。